

# 株式会社アーレスティ

## 2014年3月期 第1四半期 決算説明資料

2013年9月11日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

## ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2014年3月期第1四半期決算概況
- ◆ 今期の見通し

【参考】中期経営計画(2013－2015年度)

## ■2013年

- 3月 旧浜松工場の旧豊橋工場へ(東海工場)の集約完了  
アーレスティプリテック豊橋工場増築工事着工
- 4月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工  
アーレスティウイلمントン増築工事着工
- 7月 アーレスティプリテック豊橋工場増築工事竣工
- 8月 アーレスティウイلمントン増築工事竣工

## 今後の予定

- 9月 合肥アーレスティ拡張工事竣工予定  
アーレスティインディア工場拡張工事着工予定
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工予定

## ■2014年

- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工予定
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工予定

# アーレスティプリテック豊橋工場増築

## 株式会社アーレスティプリテック

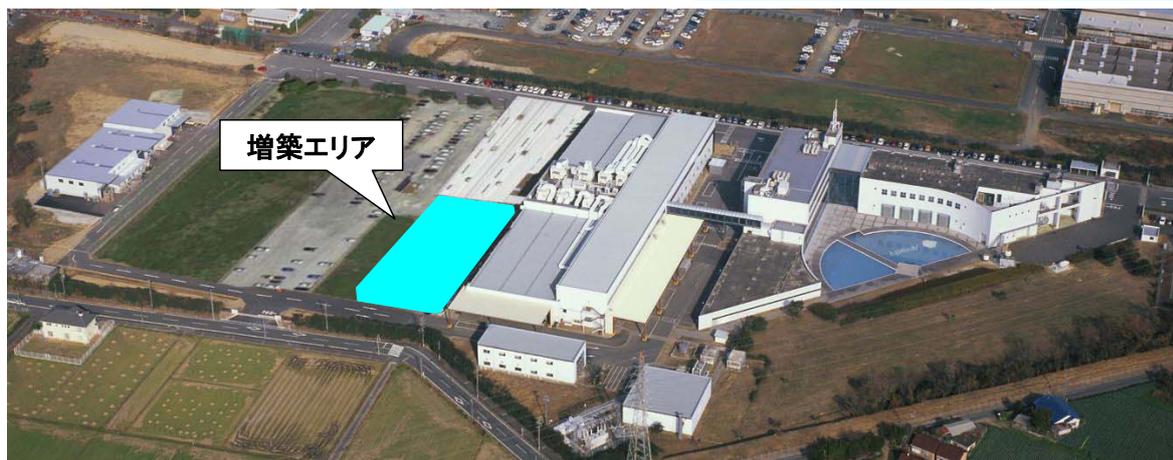
事業内容: オートバイ・自動車・汎用機、主要構成部品の精密機械加工  
工場: 本社工場、豊橋工場、浜北工場、東三方工場、高丘西工場

### ■豊橋工場を増築

2013年3月着工  
7月竣工

2013年8月現在  
(工場面積) 建屋 約 8,000㎡  
※内、増築面積 約2,600㎡

東海工場の集約・再編の一環として、  
プリテック小豆餅工場を閉鎖し、プリ  
テック豊橋工場に集約することにより、  
プリテックのみならず当社グループと  
してより効率的な生産体制を構築



豊橋工場増築工事箇所

# アーレスティンディア工場拡張

## Ahresty India Private Limited

### ■工場拡張工事

2013年9月着工  
2014年7月竣工予定

※鋳造、加工施設の増設に加え、  
生産・販売増加に合わせた倉庫  
スペースを確保。



第5期拡張工事竣工後の工場外観イメージ図

2013年8月現在

(工場面積)	土地	58,500㎡	建屋	12,200㎡
(拡張予定面積)			建屋	約3,034㎡(鋳造:1,274㎡、加工:1,760㎡)
(ダイカストマシン台数)	14台		※14年8月にかけて3台増設	
(鋳造能力)	月産900t		※増設後:	月産1100t予定

## 2014年3月期第1四半期決算概況



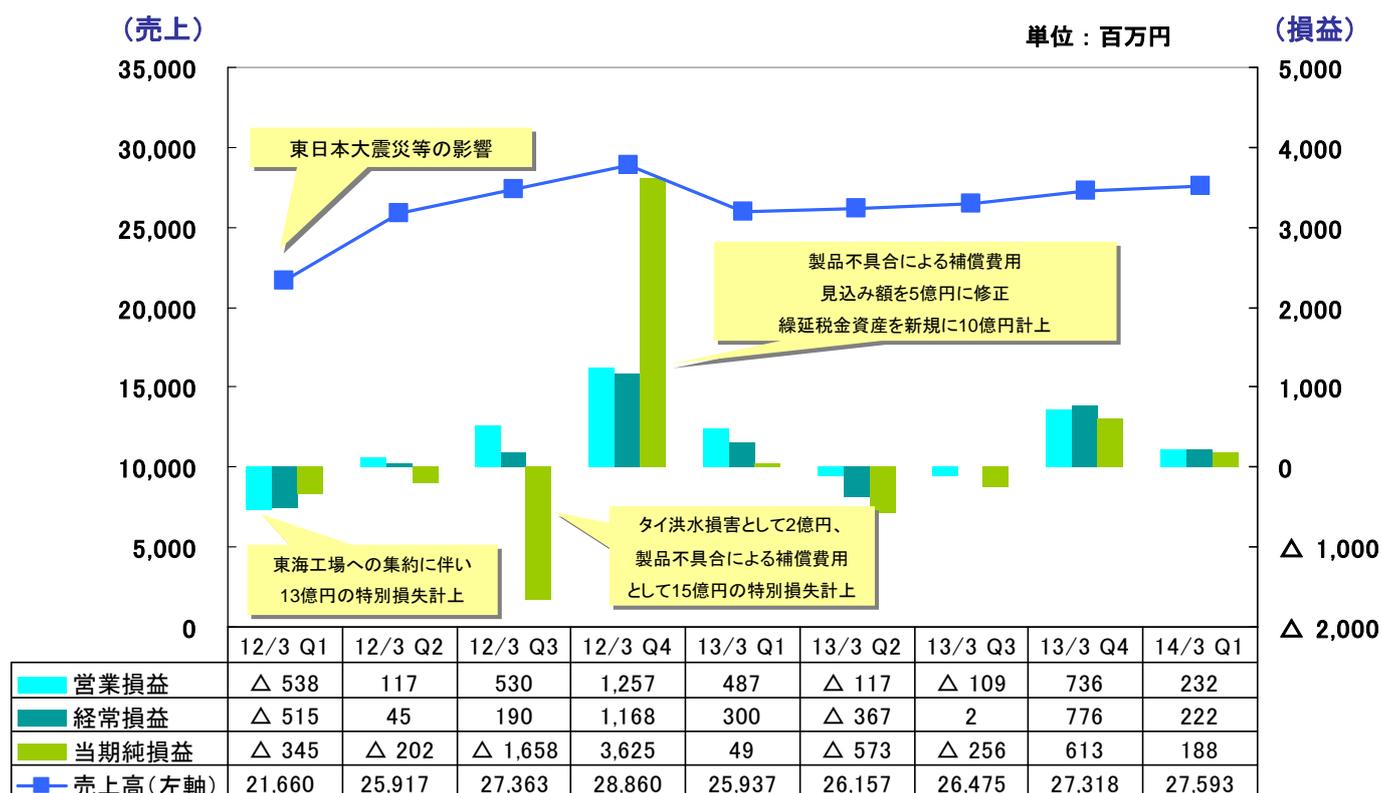
# 2014年3月期第1四半期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2013年3月期 第1四半期		2014年3月期 第1四半期		増減	
売上高	25,937	100%	27,593	100%	1,656	6.4%
営業利益	487	1.9%	232	0.8%	△ 255	△52.3%
経常利益	300	1.2%	222	0.8%	△ 78	△26.0%
四半期純利益	49	0.2%	188	0.7%	139	278.7%
EPS	2.31		8.75		6.44	

- ◆ 売上高: 国内では軽自動車の販売や北米向け輸出が好調だったものの、エコカー補助金終了による反動減等の影響により減少し、海外では受注増と円安基調にある為替影響等により、売上高は276億円(前期比6.4%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 今期より変更した減価償却方法の影響による増益効果があったものの、国内売上高の減少による影響等により、営業利益は2.3億円(前期比52.3%減)となった。
- ◆ 経常利益: 前年同期は営業外費用として為替差損55百万円を計上したが、今四半期は営業外収益として為替差益144百万円を計上していることが、営業外収支の主な差異であり、経常利益は2.2億円(△26.0%減)となった。
- ◆ 四半期純利益: 増減の主な理由は、特別損益の増減、税効果会計による法人税等調整額の増減による。

## 連結決算概要(四半期別)



# ダイカスト事業

(単位：百万円)

		2013年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	増減	
日本	売上	15,560 100%	14,238 100%	△ 1,322	△ 8.5%
	セグメント 損益	102 0.7%	619 4.4%	517	506.9%
北米	売上	5,336 100%	7,174 100%	1,838	34.5%
	セグメント 損益	382 7.2%	73 1.0%	△ 309	△ 80.9%
アジア	売上	3,918 100%	4,655 100%	737	18.8%
	セグメント 損益	△ 2 △ 0.1%	△ 355 △ 7.6%	△ 353	-

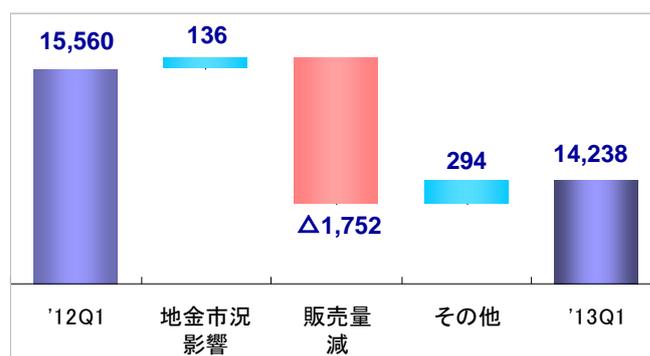
※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

# ダイカスト日本

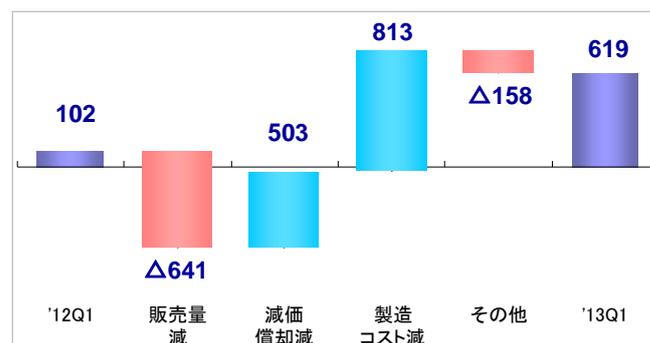
ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



軽自動車の販売や北米向け輸出が好調だったものの、エコカー補助金終了による反動減等の影響により受注が減少し、売上高は142億円(前年同期比8.5%減)となった。

セグメント利益は、販売量減少の影響があったものの、減価償却方法の変更を含む減価償却費の減少、製造コスト削減の効果等により、6億円(前年同期比507%増)となった。

# ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



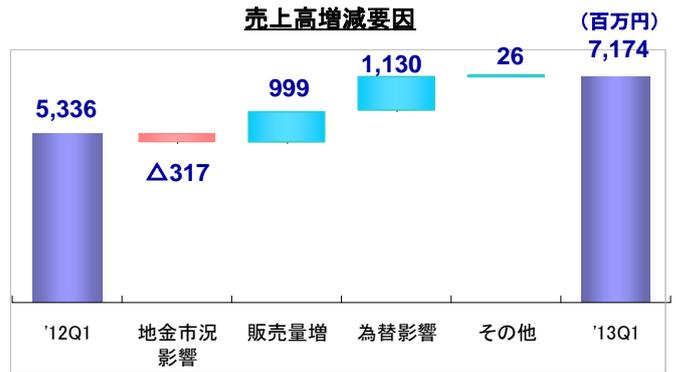
アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加、業績は堅調に推移。

メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は大幅に増加するも、高負荷に伴う製造コストの増加及び減価償却費の増加の影響等によりセグメント利益は減益。

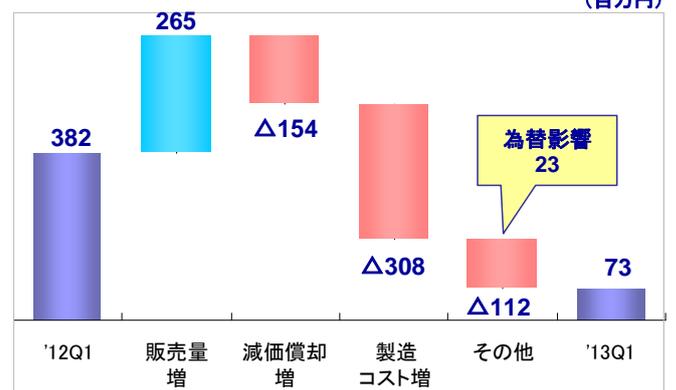
※アメリカ 4-3月  
メキシコ 1-12月

平均レート(12Q1→13Q1)  
米\$ 80.39→97.93  
メキシコ(米\$) 79.23→91.06

売上高増減要因 (百万円)

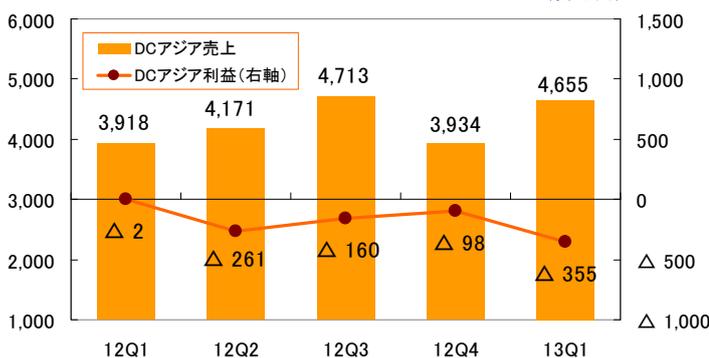


セグメント損益増減要因 (百万円)



# ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



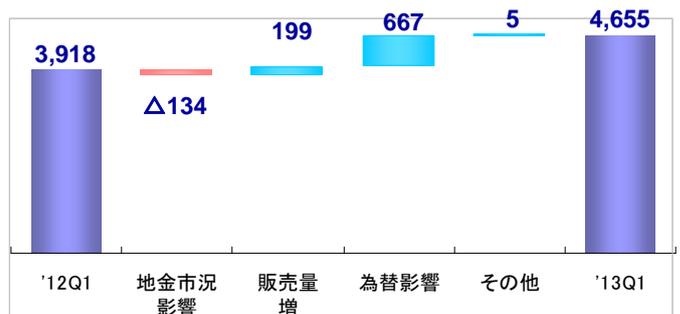
中国: 日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻っていない中、為替影響を除く売上高は横ばい。減価償却費の増加、日本へのロイヤルティ支払の増加等の影響により、利益は減益。

インド: 売上高は想定を下回っているものの前年同期より増加し、減価償却方法変更の影響も相まって、損失は減少。

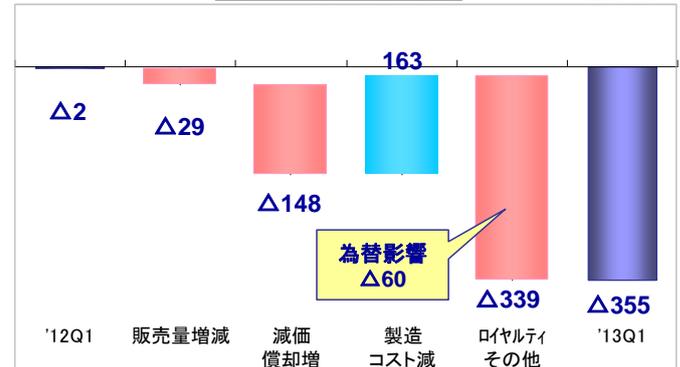
※中国 1-12月  
インド 4-3月

平均レート(12Q1→13Q1)  
人民元 12.57→14.65  
インドルピー 1.49→1.75

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



# アルミニウム事業及び完成品事業

(単位:百万円)

		2013年3月期 第1四半期		2014年3月期 第1四半期		増減	
アルミニウム 事業	売上	925	100%	1,109	100%	184	19.8%
	セグメント 損益	20	2.2%	12	1.1%	△ 8	△40.6%
完成品事業	売上	195	100%	415	100%	220	112.5%
	セグメント 損益	△ 34	△17.4%	△ 13	△3.2%	21	—

アルミニウム事業: 二次合金地金の出荷量が前年同四半期比で10.6%増となったことに加え、為替影響により販売単価がアップしたこともあり、売上高は19.8%増。セグメント利益は、原材料市況の影響等により40.6%減となった。

完成品事業: 主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し、売上高は2倍強に増加。セグメント利益は、売上高増加の効果はあったものの価格競争の激化等の影響により、13百万円の損失となった。

## 貸借対照表

(単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期 第1四半期	増減
<b>流動資産</b>	<b>37,153</b>	<b>39,026</b>	<b>1,873</b>
現預金	6,087	5,819	△ 268
売上債権	18,620	20,014	1,394
棚卸資産	9,417	9,986	569
<b>固定資産</b>	<b>73,599</b>	<b>79,445</b>	<b>5,846</b>
有形固定資産	65,150	69,766	4,616
<b>資産合計</b>	<b>110,752</b>	<b>118,472</b>	<b>7,720</b>
<b>負債合計</b>	<b>71,416</b>	<b>76,517</b>	<b>5,101</b>
買入債務	16,001	16,657	656
長短借入金	38,662	41,652	2,990
<b>純資産合計</b>	<b>39,335</b>	<b>41,955</b>	<b>2,620</b>

- ◆ 資産合計の増減のうち6割程度が為替影響による
- ◆ 売上増に伴い売上債権及び棚卸資産が増加
- ◆ 主に海外での事業拡大投資より有形固定資産が増加
- ◆ 営業CFを超える投資資金を現預金の減少と借入金で調達
- ◆ 為替換算調整勘定の増加、有価証券評価差額金の増加により純資産が増加

# 今期の見通し



## 2014年3月期業績予想

(単位: 百万円)

	2013年3月期		2014年3月期 当初計画(5/13)		2014年3月期 今回計画(8/8)		対当初計画増減	
売上高	105,887	100%	119,500	100%	122,300	100%	2,800	2.3%
営業利益	997	0.9%	2,250	1.9%	3,050	2.5%	800	35.6%
経常利益	711	0.7%	1,500	1.3%	2,400	2.0%	900	60.0%
当期純利益	△ 167	△0.2%	2,750	2.3%	3,950	3.2%	1,200	43.6%
EPS	△ 7.76		127.53		183.10		55.57	

- ◆ 売上高: 国内は主要顧客の増産により当初計画よりも増加の見込み、一方海外は北米及びアジアでの現地通貨ベースでは当初計画よりも減少が予想されるものの、設定為替レートの変更による北米での売上高の増加により連結売上高は当初計画比28億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: 海外での現地通貨ベースでの売上高の減少による影響はあるものの、主に国内の増収に伴う効果のほか、減価償却費の減少及び原価低減の効果が当初計画よりも改善できる見込みであることから当初計画比8億円増を予想。
- ◆ 当期利益: 旧浜松工場跡地売却による約22億円、投資有価証券の一部売却による約8億円を特別利益として織り込み。

2Q以降の前提為替レート: 98円/米ドル、15.3円/人民元、1.75円/インドルピー  
 (当初計画の前提為替レート: 92円/米ドル、14.5円/人民元、1.7円/インドルピー)

# 2014年3月期業績予想

(単位:百万円)

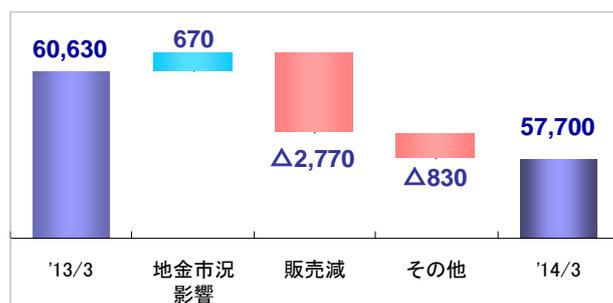
	2013年3月期 実績	2014年3月期 当初計画(5/13)	2014年3月期 今回計画(8/8)	対当初計画 増減	対当初計画 増減率
<b>売上高</b>	<b>105,887</b>	<b>119,500</b>	<b>122,300</b>	<b>2,800</b>	<b>4.3%</b>
ダイカスト日本	60,630	57,700	59,100	1,400	2.4%
ダイカスト北米	22,886	31,200	33,000	1,800	5.8%
ダイカストアジア	16,736	24,700	23,900	△800	△3.2%
アルミニウム	3,840	4,100	4,400	300	7.3%
完成品	1,793	1,800	1,900	100	5.6%
<b>営業利益</b>	<b>997</b>	<b>2,250</b>	<b>3,050</b>	<b>800</b>	<b>35.6%</b>
ダイカスト日本	601	1,450	2,350	900	62.1%
ダイカスト北米	744	850	800	△50	△5.9%
ダイカストアジア	△521	△150	△250	△100	—
アルミニウム	50	50	100	50	100.0%
完成品	78	50	50	—	—
消去または全社	45	0	0	0	—
<b>経常利益</b>	<b>711</b>	<b>1,500</b>	<b>2,400</b>	<b>900</b>	<b>60.0%</b>
<b>当期純利益</b>	<b>△167</b>	<b>2,750</b>	<b>3,950</b>	<b>1,200</b>	<b>43.6%</b>



17

## ダイカスト日本

売上高増減予測(期初) (百万円)

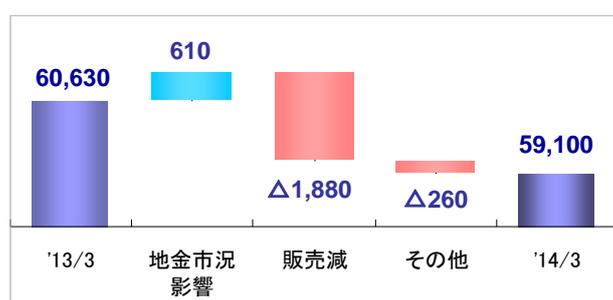


売上高: 主要顧客の国内生産増に伴い、期初想定の販売量減の影響は縮小される見込みであり、期初計画比14億円の増加。

セグメント損益増減予測(期初) (百万円)

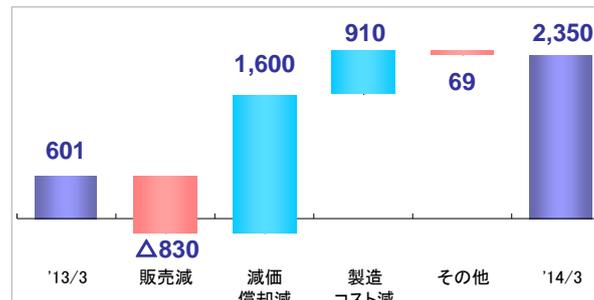


売上高増減予測(8/8修正) (百万円)



利益: 販売量の減少が軽減されること及び減価償却費が期初想定よりも減少すること等により、期初計画よりも増益の見込み。

セグメント損益増減予測(8/8修正) (百万円)



対期初増減 △60 890 570 1,400

対期初増減 330 220 310 40 900

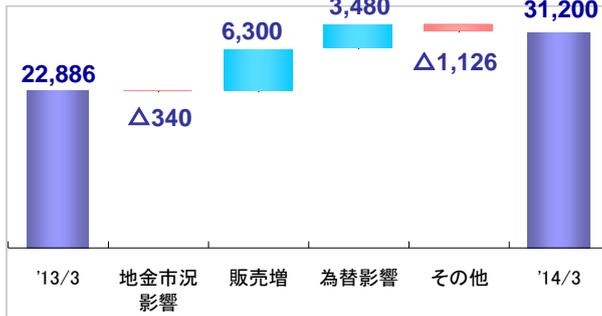


18

# ダイカスト北米

売上高増減予測(期初)

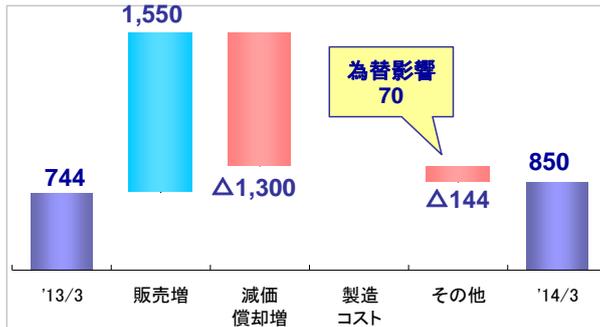
(百万円)



売上高: 販売量増による売上増は当初計画を下回る見込みであるが、設定為替レートの変更により、期初計画比18億円増加。

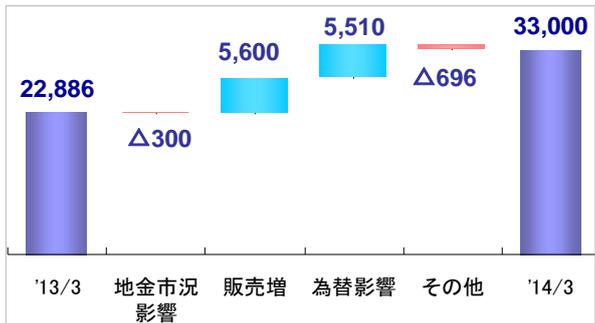
セグメント損益増減予測(期初)

(百万円)



売上高増減予測(8/8修正)

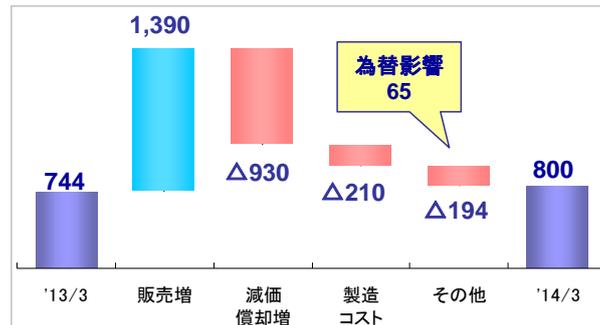
(百万円)



利益: 減価償却費の減少による増益効果があるものの、販売量減による影響及び労務費増加等により期初計画よりも減益の見込み。

セグメント損益増減予測(8/8修正)

(百万円)



対期初増減 40 △700 2,030 430 1,800

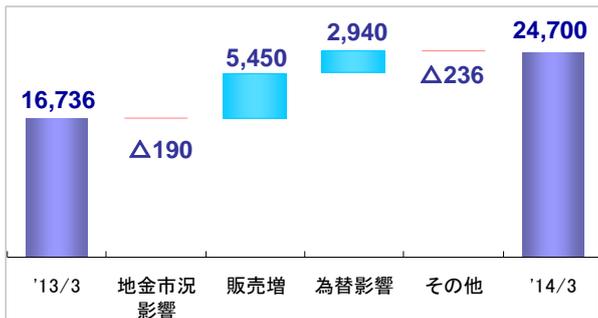
対期初増減 △160 370 △210 △50 △50



# ダイカストアジア

売上高増減予測(期初)

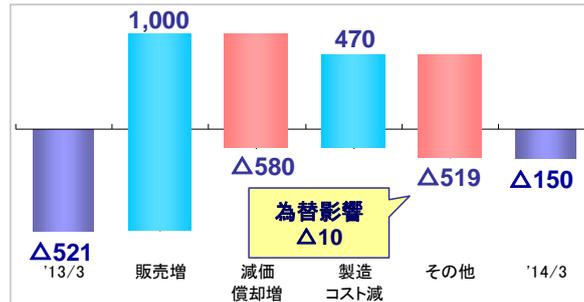
(百万円)



売上高: 中国及びインドともに、期初計画よりも販売量増による売上増は減少する見込みであり、設定為替レートの変更による為替影響を含めても期初計画比8億円減少。

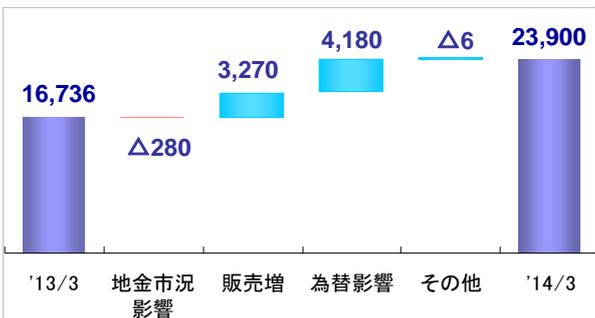
セグメント損益増減予測(期初)

(百万円)



売上高増減予測(8/8修正)

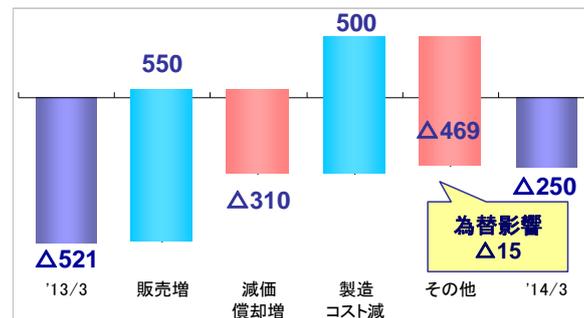
(百万円)



利益: 期初計画よりも減価償却費の減少、製造コストの削減が見込めるものの、販売量減の影響により期初計画よりも減益の見込み。

セグメント損益増減予測(8/8修正)

(百万円)



対期初増減 △90 △2,180 1,240 230 △800

対期初増減 △450 270 30 50 △100



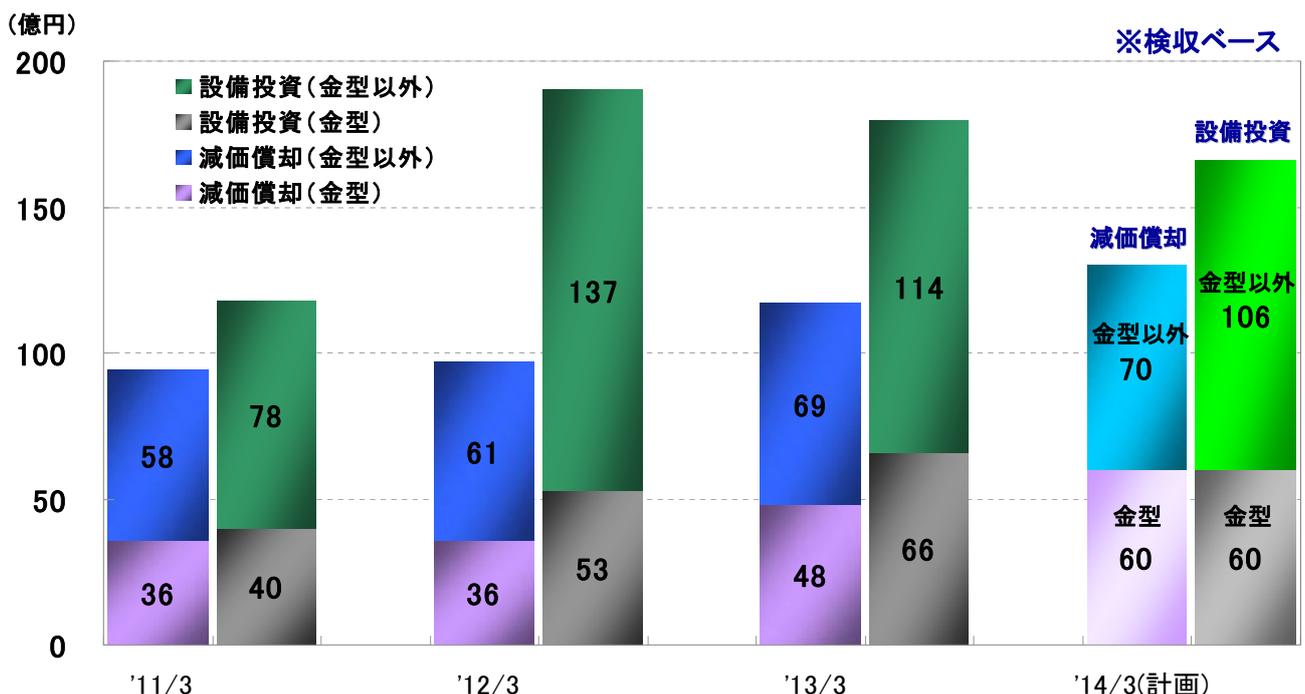
# 配当の状況

(単位:円)	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	5	12	6	3	14
中間配当	-	6	3	3	8
期末配当	5	6	3	-	6
一株当たり純損益(連結)	△ 2.77	68.80	65.87	△ 7.76	183.10
配当性向(連結)	-	17.4%	9.1%	-	7.6%

- ◆ 2013年3月期末配当は、通期業績を勘案し無配を決定。
- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を予想。  
(中間配当には、創業75周年記念配当5円を含む)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

# 設備投資・減価償却の動向

- ◆ 海外ダイカスト事業の拡大は進めるものの、従来よりも設備投資を抑制



※2014/3期より、グローバル化の進展を契機に有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法(金型に関しては生産高比例法等)に変更、並びに耐用年数を使用実態にあわせて変更。これにより従来方法に比べて減価償却費が約8億円減少。

# 【参考 2013年5月30日説明資料】 中期経営計画(2013-2015年度)



## 1012中期計画の振り返り

### 中期経営計画2010-2012年

項目	実施事項	結果	備考
ものづくりの 品質基盤強化	管理技術・固有技術を高める施策と 品質不具合の真因追究による源流 対策の展開	△	品質システム・顧客満足度・生 産性の向上に関して一定の成 果が得られた。更なる改善が 必要
プロフェッショナル 人材の育成	品質教育を始めとした部門別能力 クラス別専門教育の再構築と実施、 マネジメント・エキスパートの育成、 アーレスティウェイの浸透	○	専門教育体系等の基盤整備 を完了し、体系に沿った人材 育成を実施
グローバル 経営システムの 構築と展開と周知	グローバル業務標準、技術標準の 整備と周知	○	グローバル標準の整備を中心 に経営・営業・製造機能の基 盤強化の施策を進め、主要な 標準類の整備を完了
リスクマネジメント	BCM(事業継続マネジメント)、 BCP(事業継続計画)	○	BCMを構築、BCPを策定し推 進

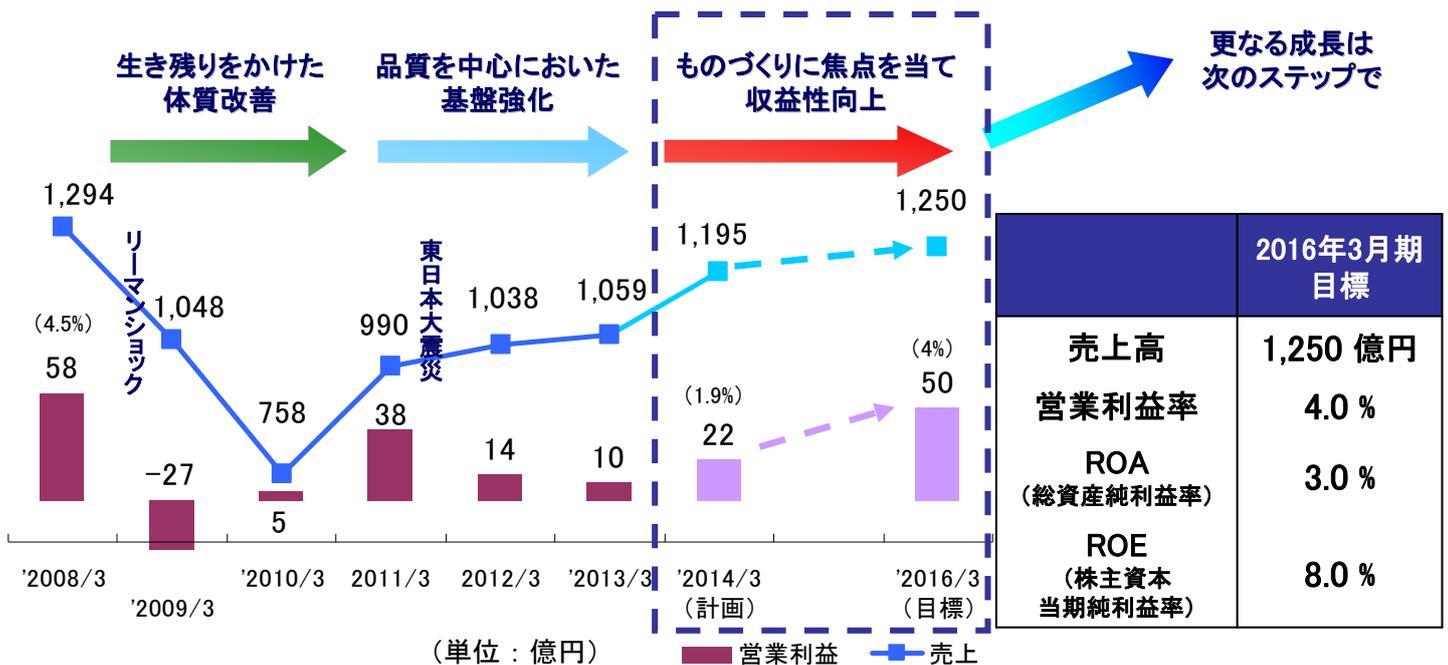
今後の課題: 更なる「ものづくり」の追求と、グローバル需要拡大と国内需要縮小という環境  
を見据えた効率的な生産体制の確立

# 1315中期計画

## 中期経営計画2013-2015年

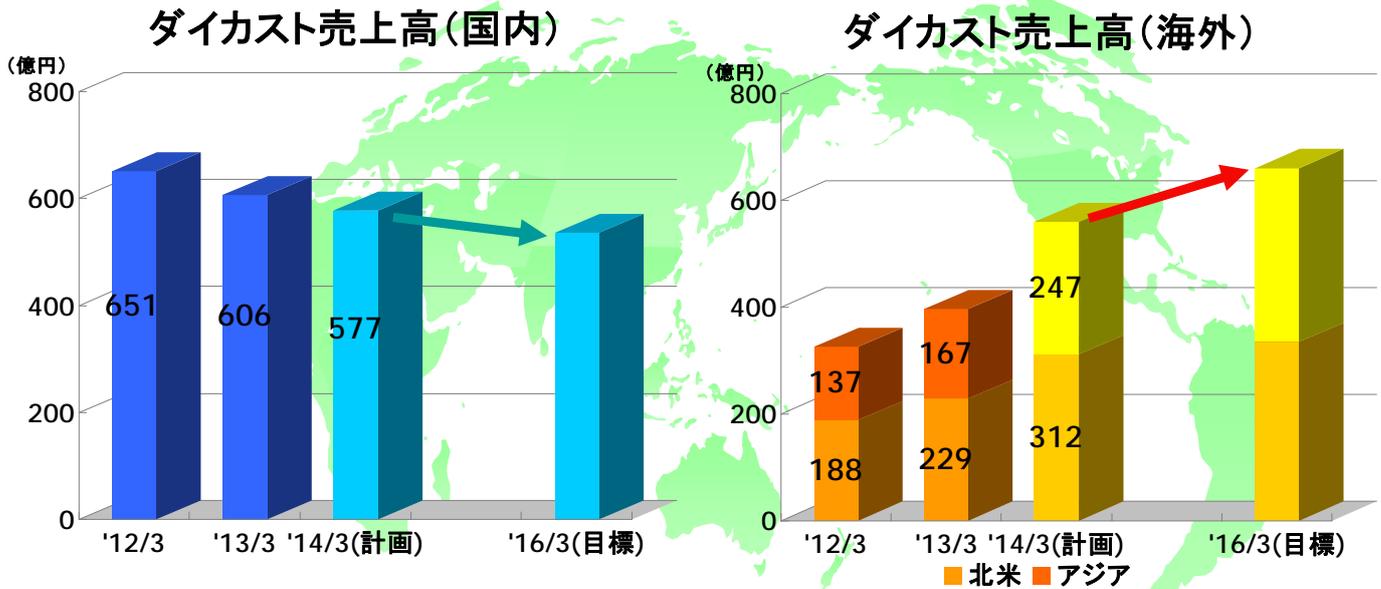
項目	実施事項
最善なものづくりの追求と共有	現場と設計が一体となったものづくりの再構築、全拠点で同一の品質・生産性の実現、生産性の向上等の施策を展開
ものづくりの現場で活かす技術開発	ものづくりを究めるための技術ロードマップにもとづく施策、パワートレイン以外の市場の開拓等の施策を展開
ものづくりを支える人づくり	実践に裏づけされたスキルを持つ人づくり、3現・2原に基づいた活動ができる技術者の育成等の施策を展開
健全な利益追求	収益力向上による持続的な企業成長と成長市場への展開、業務の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実現、工程別・課別コストの見える化による収益管理レベルの向上等の施策を展開

## 2016年3月期 目標数値



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ 国内需要の縮小を見据えた効率的な生産体制の確立
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進

# ダイカスト事業売上高動向

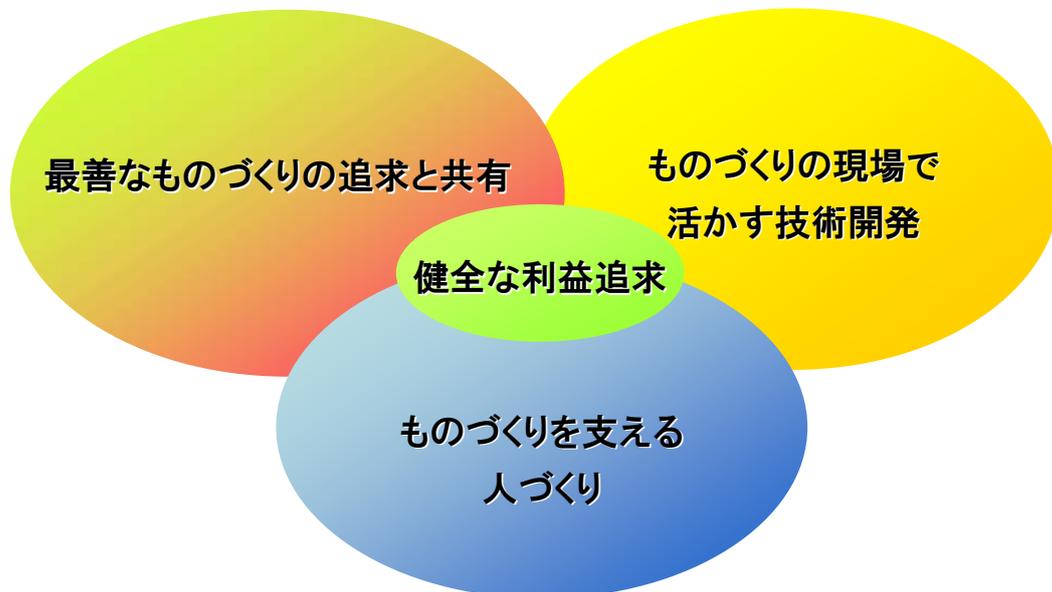


- 日 本: 中期的には国内需要は縮小の方向。需要に見合った生産体制として、一定の収益を確保。
- 北 米: アメリカの堅調な業績推移を維持しながら需要拡大に対応し、メキシコの生産性を向上させ、投資を抑制しつつ売上を拡大。
- アジア: インド、中国合肥の黒字化を図り、生産性の向上により投資を抑制しつつ、需要拡大に対応。

【参考】前提為替レート: 92円/米ドル、14.5円/人民元、1.7円/インドルピー

## 新10年ビジョン

ダイカストを核としたグローバルTOP企業  
 「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」



# 株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-5332-6004

E-mail: [ahresty\\_MP0\\_IR@ahresty.co.jp](mailto:ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp)

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。